



植物は 左利きが多い

2005年7月

七月になると促成された朝顔が鉢植えで売られる朝顔市があり、朝顔は苗を求めたり種からの園芸を楽しまれる、育てやすい夏の代表的な草花だ。小学校の夏休みに観察日記を書いたことのある人も多いのではないだろうか。

アサガオは典型的なつる植物だが、生存競争に勝ち残るため、どうにかして周りの植物より多く

の光を受けようとしたとき、幹を極端にスリム化して、伸ばすことに勢力集中して進化したのが蔓性植物だ。幹や枝を伸ばさずに、落葉樹の下で春早に子孫を残してしまうものや、他の植物が生えない環境に住み分けるなど、植物は色々な知恵を働かせている。

蔓植物は自立できないほど細いので、周りの物体につかまって昇ったり、明るいところまで這い出たりするが、その方法には何種類があり、次のように分類（独断）できる。幹や葉柄にある下向きの棘を引っ掛けてよじ登る、アカネやヤエムグラなどのような鉤型、ブドウや瓜類のようにヒゲ蔓（葉っぱの変形）を伸ばし、触れるものに巻きつけて自分を引き寄せて支える、巻きひげ型（葉柄を絡ませるテッセンやヒヨドリジョウゴなどは前段階か）、幹や茎から根（気根）や吸盤を出して付着するツタのような付着型、地上を這って伸び、ときに垂れ下がったりする這回型、そして、アサガオのような巻きつき型などとなる。これらのいくつかを併せ持つ複合型があり、カナムグラなどは巻き付くだけでなく、這い上がれるように茎や葉柄に強固な棘がある。また、節から根を出し繁殖する蔓性植物は多く、園芸では一節挿しでよく増やせる。

他の物体に巻き付き立ち上がる巻きつき型は、成長点を伸ばしながら首振り（回旋運動）をして、触れたものに巻き付くことが知られている。巻き付く方向は植物ごとに決まっているが、フジ以外は図鑑などにもあまり書かれていない。よく「朝顔は左巻き」と言われるが、その他のものはどうなっているか気になり、夏の小学生に戻ったつもりで手近な巻きつき型植物の巻き方向を調べてみた。結果は表のとおり左巻きが圧倒的で、右巻きはスイカズラ、ノダフジ（園芸用）、ヘクソカズラなど少数だった。絡むのは人間にも左党が多いようだが、

地球の原始から受け継いでいる共通の DNA の仕業が知らん。

あるいは台風の渦巻きが南北の半球で違うように、南半球ではアサガオの蔓も右に巻くのだろうか。また、疑問ができてしまい、夏の夜の蒸し暑さを助長することになりそうだ。

巻きつき型植物の巻方向

左 巻 き 植 物		右巻き植物
アケビ（3葉、5葉、ムベ）	ツルムラサキ	カナムグラ
アサガオ	ツンベルギア	サネカズラ（ビナンカズラ）
アリアケカズラ※1	テイカカズラ	スイカズラ
アリマウマノスズクサ	トキリマメ※1	トコロ
インゲン	ノアズキ※1	ツルニンジン※1
ガガイモ	ノササゲ※1	ネナシカズラ※1
カモメズル（コバ、シロバナ）※1	ヒルガオ、コヒルガオ	フジ（ノダフジ）
キウイ	ヤブツルアズキ※1	ヘクソカズラ
クズ	ヤマイモ	
サルナシ	ヤマフジ（ノフジ）※2	
ジャスミン（マダカスカル、ハゴロモ他）	ヤママメ※1	
ツルウメモドキ	ルコウソウ	
ツルマメ※1	大豆※3	

※1：図鑑の写真から判定したもの

※2：文献には山藤は左巻きと書いてあるが、北野神社の杜に自生するフジは高い樹上に絡んでいるが、右巻きなので園芸種なのかも知れない。

※3：大豆を日照不足で育てたところ、蔓になって絡んだことがあった。

なお、右巻き左巻きの定義は、上から見て反時計方向に巻き付くもの（右ネジに相当）を左巻きと呼んでいる。一部のものは図鑑の写真から判定したが、実物を見たものでもサンプルは少なく、中には左右どちらにも絡まる植物があるかもしれない。つる草ではないが、モジズリ（ネジバナ）の螺旋花は右・左どちらに振れるものや、真っ直ぐで振れないのもあるので、つる植物にもそのようなものだったり、調査もれの種類などお教えいただきたい。